

同窓会

の

# チカラ

同窓会のための情報誌

2025

紹介●同窓会活動紹介

- ・大学生が運営する伝統ある同窓会：神奈川県立光陵高等学校光陵会
- ・同窓会報の読者プレゼント：茨城県立竜ヶ崎第一高等学校白幡同窓会
- ・頑張る生徒を応援します！：佐賀県立唐津商業高等学校若桐同窓会

リレー連載●私たちと同窓会

- ・山形県立致道館高等学校同窓会  
事務局長 佐藤 守  
事務局次長 田澤 妙子

わが学び舎

- ・茨城県立太田第一高等学校同窓会

*Our Proud*

茨城県立太田第一高等学校（旧茨城県太田中学校講堂）  
1904年（明治37年）12月竣工 木造一階建／国指定重要文化財

Vol. 17

# 大学生が運営する 伝統ある同窓会

## 神奈川県立光陵高等学校光陵会

### 若いチカラが生み出す「世代の交差点」

●多くの同窓会では、卒業生が社会人として経験を積み、人生の余裕が出てきた頃に役員・事務局を務めるイメージがある。しかし、今回紹介する光陵会はまったく違うアプローチをとっている。中心となる運営を担うのは、卒業したばかりの大学生たち。学生が企画・運営を継承していくという独自の文化を脈々と続けている実態を、3世代の役員・事務局員にお集まりいただき、お話をうかがった。

「神奈川県立光陵高等学校は、もうじき創立60周年を迎える学校です。1期生の卒業後まもなくして光陵会が発足し、その3年後に同窓会長に就任した時、私はまだ大学生でした。ですから、必然的に学生生活と並行して同窓会運営を行わなければなりません。当然誰も教えてくれる人もおらず、まずはやってみる」という経験が、今なお伝統として後輩たちに引き継がれています。」と、取材の冒頭、初期の光陵会について語ってくれたのは、50年以上にわたって光陵会会長をつとめる太田秀和氏（2期）である。

同窓会の運営を大学生に委ねる——光陵会には、若い世代を信頼し「まずはやってみる」と後押しする上の世代の寛大な見守りの風土がある。会長や理事の方々も、自分自身が大学生の頃に同窓会運営を経験し、「試しにやってみる」「失敗してもいい」という風土で取り組んできた。今度はその立場になった彼らが「新しい世代の背中を押す」番になっているわけである。

#### 同窓会入会説明会

##### 卒業生が母校を訪れるユニークな仕組み

同窓会の入会式は、多くの場合卒業式の前日に行われるイメージがある。しかし光陵会では、同窓会入会説明会を「毎年12月」に実施するのが慣例だ。2学期最後のHRの時間を活用し、卒業したばかりの先輩が大学1年生や2年生として母校に戻り、後輩たちに直接「同窓会とは何か」「どんな活動があるのか」を説明している。

かつては、複数の大学生がペアになり教室を一つひとつ回ってプリントを配りながら「同窓会に入るとこんなメリットがありますよ」と説明していたそう。最近では、コロナ禍の影響で対面での説明会開催が困難になったこともあったが、若い発想と行動力によって当時大学生であった高橋歩希氏がICT化を進め、オンラインで学校集会を実施していた高校と連携し、ビデオ通話を使って各クラスへ一斉配信をする形式を取るようになった。結果的には、平日は大学の授業や実習がある学生も多いため、限られた人数でもオンライン

配信で対応できる“スタイルに移行したこと、運営がさらにスムーズになっているようだ。

また印象的なのは、当日に「クラス幹事を2人ずつ選ぶ」という点。いわゆる



ICTを活用した入会説明会（2024）

“強制的に当てはめる”形にはなるが、同窓会の運営を担う学生を確保していくうえで欠かせない仕組みでもある。もっとも、「じゃあ私がやります」と前向きに手を挙げる学生ばかりではないので最初は渋々だった人もいるが、イベント企画や先輩との交流を経験するうちに、「やってみると意外と楽しい」「就職活動にも活かせる（就活で課外活動としてPRすることができる）」と思うようになるそう。

#### キャリアガイダンス

##### 母校への「リアルな恩返し」

光陵会がもう一つ力を入れているのが、高校1、2年生向けのキャリアガイダンスだ。年に一度、土曜日の午前中などを利用して、弁護士、教員、芸術家など多様な分野で活躍する卒業生を招き、自分の進路や仕事について語ってもらっている。生徒たちにとっては、生の声を聞く貴重なチャンス。大学進学や就職を意識し始めた段階で、先輩たちの本音が聞けることが良い。

このキャリアガイダンスには、毎年20名前後の卒業生が自発的に参加するそう。その背景には、「自分が高校生の頃にこういう話を聞いたかった」「母校への恩返しをしたい」という思いがあるという。会報などを通じて募集をかけると「私も登壇したい」という声が想像以上に集まり、同窓会運営にとっては予期せぬ幸運が続いているそうである。

#### 同窓会が「社会人教育の場」にもなる

“大学生が同窓会を運営する”と聞くと、あまり現実味がないように感じるかもしれ



●連絡先

神奈川県立光陵高等学校光陵会  
〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1  
E-mail : staff@koryokai.jp  
HP : https://koryokai.jp



左から  
太田秀和 (おおた・ひでかず) 氏 (2期) / 光陵会会長  
上原 武 (うえはら・たけし) 氏 (25期) / 監査  
池田結香 (いけだ・ゆうか) 氏 (54期) / 副事務局長  
堀部 琴 (ほりべ・こと) 氏 (54期) / 書記  
高橋歩希 (たかはし・あゆき) 氏 (52期) / 副事務局長  
藤原直人 (ふじわら・なおと) 氏 (31期) / 副会長

ない。しかし、光陵会の大学生たちはSNSやオンラインツールを巧みに使いこなし、SlackやDiscordでタスク管理を行って会議を開き、仕事の進捗を共有している。「社会人としての基礎スキルを在学中に身につけられる」と、彼ら自身そのメリツトを感じているようだ。  
さらに、年度ごとに代替わりがスムーズなのも特徴的だ。

現在、ともに大学生の池田結香氏(54期・副事務局長)と堀部琴氏(54期・書記)はこう語る。「私たちも大学3、4年生の『先輩』から丁寧引き継ぎを受けました。現在では、大学1、2年生の『後輩』たちをサポートする立場で、私たちが主体となって同窓会を運営しています。困ったら社会人の先輩たちにも気軽に相談できるし、ここではビジネスマナーやコミュニケーション術なども教えてもらえます。」

こうした世代を超えた多層的な学びの環境が確立されているので、少し先をゆく先輩学生や大人たちと連携を取りながら安心して同窓会運営にチャレンジできているようだ。

同窓会Ⅱ

“人生を豊かにする”コミュニティ

高校を卒業し、大学や就職先に進むと、母校と疎遠になる人も少なくない。ところが、光陵会では頻繁に開催される集まりに多様な世代が参加することで、居心地の良いコミュニティが保たれている。大学生にとっては、社会人の先輩と気軽に話せる数少ない場所であり、就職活動や将来設計の相談をすることも可能である。

一方で、社会人世代である監査の上原武氏(25期)や副会長の藤原直人氏(31期)は「若

い人たちとの会話は新鮮」と感じることが多いらしく、「最新のテクノロジや学生のトレンドを知るきっかけにもなる」と言う。さらに上の年齢層には「自分が会社で培ったノウハウを次世代に伝えたい」という思いがあり、そこに学生の柔軟な発想力が合わさって、自然と世代を超えた学び合いが生まれているそうだ。

世代交代が進んでも、受け継がれ続ける“光陵会のDNA”

こうしたエネルギーな若い運営体制を可能にしているのは、光陵会が培ってきた“DNA”そのものである。卒業して十数年が経ち、30代・40代になった卒業生の中には、大学生や20代の後輩たちを「現場指揮」の面でサポートしつつ、「自分も社会人として同窓会に何かしら貢献したい」と考える人が増えているようだ。そうした中堅世代が、キャリアガイダンスの講師や総会での特別講演を引き受け、生徒たちや大学生をリードしながら盛り上げる——この絶妙なバランスが光陵会の大きな強みといえるだろう。

母校と卒業生をつなぐ“夢の構想”

さらに上の世代の会長や副会長たちが思い描くのは、「より多くの卒業生を母校へ誘うこと」だ。文化祭や音楽祭への招待を積極的に行い、「あの教室や校庭、校歌を懐かしんでもらいたい」といった想いを形にしようとしている。60代、70代になっても校歌を聴けば当時の思い出がよみがえる——そうした「共通の原体験」を大切に、在校生と卒業生との関わりが生まれるような、学校行事の

新しい在り方を構想しているそうである。

世代を超える“交差点”としての同窓会

光陵会の活動を見ていると、同窓会がただの飲み会や懐かしむ会ではなく、在校生・卒業生・現旧教職員といったさまざまな立場を結ぶ「交差点」であることが改めてよく分かった。若い世代が人会説明会やキャリアガイダンスなどの運営、さらには同窓会報の企画・原稿依頼・制作までを行い、その姿を見た上の世代が手助けを買って出る。さらに、そこに魅力を感じた他の卒業生が次々と声をかけ合い、新たな企画やイベントが生まれていく——まさに「人の輪」が広がりに続けているのだ。光陵会が掲げる「卒業生が母校を支え、母校が卒業生を見守る」という姿勢は、多くの学校同窓会においてもヒントになるはずだ。若い世代のチカラを借りるだけではなく、その運営経験自体が学びの場として成立する。つまり、「同窓会」は社会人教育の入り口にもなり得るのだ。

最後に、太田会長が語った印象的な一言を紹介する。「校歌を歌えば、いくつになってもあの頃に戻れる。同じ思い出を共有する仲間と集まる喜びこそ、同窓会の本当の価値だと思う。」光陵会の挑戦は、世代を超えたつながりの価値を再認識させてくれる。

今回の取材で、光陵会は「若い世代が主体となって伝統を次世代へつなぐ」という、周りに見ると革新的とも思える同窓会の姿を私たちに教えてくれた。そして、その環境は温かく支える先輩がいるからこそであり、多世代が融合して新たな価値が生まれていることを学んだ。■



# 同窓会報の読者プレゼント

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校  
白幡同窓会

双方向コミュニケーションへの挑戦



●連絡先  
白幡同窓会HP  
<http://www.shirahata.sakura.ne.jp>  
〒301-0844 茨城県龍ヶ崎市平畑248  
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校内  
TEL 0297-62-2146 FAX 0297-62-9830  
メールアドレス shirahatadousoukai@gmail.com

倉持 正男 (くらもち・まさお) 氏  
竜ヶ崎第一高等学校 昭和50年(高校27回)卒業

●茨城県立竜ヶ崎第一高等学校白幡同窓会の同窓会報では、2022年発行の第34号から、新たな試みとして読者プレゼント企画を開始した。同窓会報は情報発信の重要なツールだが、一方通行になりがちという課題意識があった。そこで会員との双方向コミュニケーションを促進し、同窓会報への関心を高め、ひいては同窓会活動の活性化に繋がりたいという思いから、この企画をスタートさせたという。本誌は企画の立案から運営までの中心人物である同窓会副会長の倉持正男氏(高校27回)に伺った。

## 読者プレゼント誕生秘話… 双方向コミュニケーションへの模索

読者プレゼント企画は、数年前に同窓会役員会で発案したものだ。会報をより魅力的なものにし、会員との繋がりを強化したいという思いから、一方通行になりがちな情報発信のあり方を見直す動きが出てきたのがきっかけだった。

当初は、記事の内容に関連したクロスワードパズルなどを掲載し、解答者を対象にプレゼント企画を行う案を検討した。しかし、クロスワードパズルでは特定の会員層にしか響かない可能性があること、記事の内容に合わせたクイズ作成の難しさなどから、この案は実現には至らなかった。

その後、試行錯誤を重ねる中で、同窓生が制作・提供した作品などをプレゼントするという現在の形に落ち着いた。同窓生の作品をプレゼントすることで、会員同士の繋がりを深め、同窓会報への関心を高める効果も期待できると考えた。

## 第1回読者プレゼント… 野球部監督のサイン本

2022年発行の第34号で実施した第1回読者プレゼントでは、野球部監督のサイン本をプレゼントした。応募方法は同窓会ホームページからのみとし、応募状況や会員情報の集約を効率化するとともに、ホームページの活用促進も狙った。

初回の応募数は23件と少なかったものの、新たな試みへの手応えを感じた。当選者決定は、役員会での厳正な抽選によって行った。

## 第2回読者プレゼント… ティーポット&写真集

続く第2回読者プレゼントでは、私の同級生である陶芸家によるティーポットとティーカップのセット、そして「牛久沼」をテーマとした写真集(卒業生の写真家が製作)をプレゼントした。

ティーポットは、同級生である陶芸家が以前から同窓会総会出席者への記念品として「オリジナル校章入り湯呑」を制作しており、受け取った卒業生からも大変好評で、欲しいという声が多数寄せられたことから、別の作品を読者プレゼントとすることに決めた。



写真集は、同窓会報の記事で紹介した卒業生(写真家)の作品だ。同窓会報との連動を

図り、記事で紹介された人物や作品にスポットライトを当てることで、会報全体への関心を高める狙いがあった。

## 苦勞と喜び…会報活性化への挑戦

読者プレゼント企画は、プレゼントする品の選定や応募方法、抽選方法など、様々な面で試行錯誤が続いている。苦勞もある一方、会員から寄せられる「ぜひ欲しい」「興味深い」といった声は、会報活性化に向けて取り組み大きな励みになっている。

特に、応募の際に寄せられるコメントは、会員の生の声として貴重な情報源になっている。「卒業生による牛久沼の写真集があったとは知らなかった」「こういう企画を待っていた」といった感想は、今後の会報作りを活かしていきたいと考えている。

## 同窓会報の未来… 双方向コミュニケーションを 目指して

同窓会報は、「同窓会と会員を繋ぐ大きな絆」だと考えている。会員にとって価値のある情報はもちろん、読みやすさや魅力的なコンテンツも重要だと考えており、読者プレゼント企画はその一環として位置づけている。今後は、読者プレゼント企画を継続していくとともに、会員の反応を見ながら内容をブラッシュアップしていく予定だ。双方向のコミュニケーションを促進するための新たな仕掛け作りにも意欲的で、同窓会報を通して会員の心をつかむ活動を続けていきたいと考えている。



●問い合わせ先  
山形県立致道館高等学校同窓会事務局  
〒997-0037 山形県鶴岡市若葉町26-31  
TEL 0235-22-0061 / FAX 0235-24-5808  
URL : https://www.chidokan.jp

# 私たちと同窓会

## 山形県立致道館高等学校同窓会

事務局 長 佐藤 守  
事務局次長 田澤 妙子



同窓会HP



佐藤 守



田澤 妙子

### 統合同窓会初年度

「ひきつぎ・つくり・わたす」

令和6年4月、山形県立致道館中学校・高等学校が開校しました。120年余の歴史ある2校（鶴岡南高校と鶴岡北高校）が統合し、中高一貫校が誕生したのです。  
2校は昭和25年に一度統合したものの、2年後に分離した経緯があります。まさに兄妹校と言っても過言でない関係でありました。  
このたびの統合と同時に、会員数6万人超の『県立致道館高等学校同窓会』が発足しました。

「ひきつぎ」を統合の基本方針として、令和3年度に、両同窓会の代表若干名で「統合準備事務局」を立ち上げ、新同窓会発足の準備に取り組みました。

最初に両同窓会の会則を確認したところ、目的・事業・役員等々運営方針が全く同じで、新たに方針を設ける必要はありませんでした。脈々と続いてきた活動を次世代に引き継ぐため、新同窓会の基本方針を【同窓会員及び事業は、すべて新しい同窓会にひきつがれる】とし、細部の検討を行いました。

#### スリムな運営組織をつくる

会員数は統合によりほぼ2倍となりますが、運営組織の単合体は肥大化となり、機動力不足となるのが目に見えていました。そこで大前提としてスリムな運営組織体制をめぐって検討を始めました。

学年理事について、正副会長より多数とし、理事会において役員会上程議案をチェックできる体制としました。さらに実行委員会にも配属となり、組織の中核となります。1年毎にポジションが変わり、退任すれば重責から解放されるようにしました。

実行委員会の体制は卒業年度の学年当番制で、卒業40周年と30周年の学年を主体とし、

補佐役として次年度の主体となる卒業39周年と29周年の学年を配置しました。  
毎年担当学年が繰り上がり、組織内人事の活性が図られてリフレッシュされます。

卒業後の周年	役職	実行委員会
卒 20 周年	理事	-
卒 29 周年	理事	補佐(次年度主体)
卒 30 周年	理事	○主体(副実行委員長)
卒 31 周年	理事	-
卒 39 周年	理事	補佐(次年度主体)
卒 40 周年	理事	◎主体(実行委員長)
卒 41 周年	理事	-

※出身高校より各1名選出されます。

事業の企画運営について、事業は親睦会の開催と同窓会報発行であり、それぞれ実行委員会に部会を設け実行します。スリムな企画運営を目指すことから、企業連携を計画しました。企業から同窓会を事務局に出向していただき、それぞれの部会運営を一任することになりました。

ここで重要なことは、企業との距離感を保ち、近づくが紳士的な関係を、恒久的に続けなければならない事です。

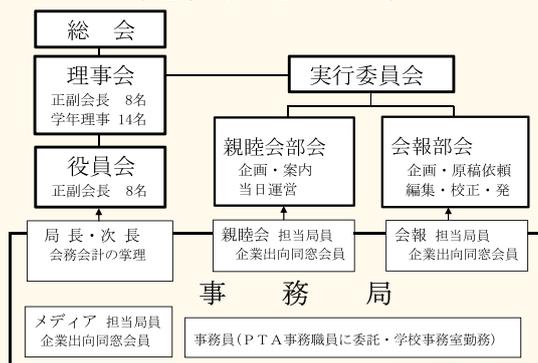
統合準備事務局を閉じるに当たり、いくら兄妹校と言っても、創立時には男子校と女学校、アイデンティティが違います。特に注意したことは偏った組織体制を防ぐことでしたが、思いが足らず、たまにお叱りを受けることがあります。

#### 実行委員会の活動を振り返る

令和6年7月6日に第1回「総会・親睦会」

を開催。総会において『県立致道館高等学校同窓会』規約を承認、組織図通り各セクションも承認されました。  
引き続き親睦会が開催され、新同窓生となった180余名が懇親を深めました。  
12月初旬には会報部会が念入りに企画編集した「同窓会報第1号」を3万余名の会員に発送することが出来ました。  
この実行委員会活動を振り返ると、担当学年同窓生は相互で連携し、創意工夫をしながら主体的に活動しました。

致道館高校 同窓会 組織図



#### おわりに

担当学年同窓生が協力して二大事業を達成し、同窓会活動の良い道筋を残してくれました。この「ひきつぎ、つくり、わたす」の流れが、この先ずっと『県立致道館高等学校同窓会』に続くことを期待します。

同窓会事務局では、この流れが軌道に乗るまで今後も、皆で智恵を出し合い、協力して、一つ一つの事柄に向き合っていきたいと思えます。



# 頑張る生徒を応援します！



## ●連絡先

佐賀県立唐津商業高等学校若桐同窓会  
〒847-1422 唐津市元石町235-2  
唐津商業高等学校内  
TEL 0955-72-7196(代表) FAX 0955-70-1024  
メールアドレス karatsushougyoukoukou@mail.saga-ed.jp

唐津商業高等学校若桐同窓会・会長  
毛利 一幸 (もうり・かずゆき) 氏  
(商高第7回・昭和44年卒)

## 佐賀県立唐津商業高等学校 若桐同窓会

### 検定資格取得奨励助成金制度

●佐賀県立唐津商業高等学校若桐同窓会では、頑張る生徒を応援するため、2023年度から「検定資格取得奨励助成金制度」をスタートさせた。生徒一人ひとりに夢と目標を持たせ、将来、社会で活躍する人材になってもらいたいと願いを込めて始めた新たな事業について、若桐同窓会・会長 毛利一幸氏に伺った。

「まずは、この事業のきっかけなどからお話しただけですか？」

毛利一幸会長(以下、毛利会長)「若桐同窓会では、毎年卒業時に終身会費を徴収し同窓会活動の一部に使わせてもらっています。その一方、生徒たちが部活動で九州大会や全国大会などに出場する場合は、母校後援費として拠出し、生徒たちの活躍を支援しておりますが、もっと広く生徒たちを応援することはできないかと常々考えていました。」

そんな折、現校長が福岡県のある高校の教頭と交流があり、その高校で取り入れている活動を参考に唐津商業高校でも導入してはどうかとの提案を受け、同窓会として導入することにしたのがきっかけです。

「この助成金制度の流れについてお聞かせください」

毛利会長「システム的には一旦生徒本人が受験料を払って受験してもらい、合格すると合格通知が来ますよね。それによって同窓会から学校へ助成金を拠出し、学校から生徒へ渡しています。資格検定の時期もバラバラですから、合格者を一堂に集めて助成金を授与するようなセレモニーは行っていませんね。」

「受験料の100%、50%を助成とありますが、その線引きとなる基準は？」

毛利会長「学校と協議し、資格取得の難易度で分けています。」

「助成を受けられる上限などはあるのですか？」

毛利会長「上限は設けていません。在学中の3年間で何度でも、いくつでも挑戦し合格した生徒には助成します。例えば、2年生の時に日商簿記2級を取得し、3年生で日商簿記1級、または別の資格を取得すれば、その資格ごとに助成をします。ですから、生徒たちには3年間で様々な資格を取得してもらいたいですね。」

「ちなみにこれまでの助成実績は？」

毛利会長「初年度は、延べ93名、今年度は、延べ83名に助成しました。中には、2年生の時に日商簿記1級を取った子がいます。今は税理士の簿記を勉強していて、将来は公認会計士になりたいと言っています。」

「高校2年で1級を？」

毛利会長「元々頭も良かったのだと思います。熱心な先生もいらつしやいます。いい指導者がいるとチームが強くなるように、科目でも指導者が良いと効果があります。」

日商2級を取れば、国立大学の推薦ぐらゐの対象になります。今や商業高校も進学校となり、生徒の60%ぐらゐが進学します。」

「この制度を始めてから変化したことってありますか？」

毛利会長「やはり生徒たちが積極的に資格取得に向けて取り組むようになりましたね。保護者からも喜ばれましたし、教育振興会との関係が今まで以上に近くなりました。学校を

取り巻く組織がうまくリンクして活性化しています。」

「ところでここにある資格以外は対象外なのですか？」

毛利会長「今後増やしてほしいという要望があれば、学校と協議し、必要に応じて積極的に助成していきたいと考えています。」

「ありがとうございました。では最後に将来の展望などをお聞かせください」

毛利会長「私たち同窓会が一番に目指していることは、“母校をいかに魅力的な学校にするか”ということです。ですから、今の中学生が、唐津商業高校に行けばこんな資格が取れる、それに対して先輩方が経済的に支援してくれる、そして自分の将来が開けてくるという可能性を感じてもらえるような学校になつてもらいたいですね。少子高齢化が進む今、特に地方の場合は、定員1・0を超える学校は少ないんですね。そんな中で、唐津商業高校は1・0を超えています。今以上に魅力的な学校に進化させ、選ばれる高校になるよう同窓会としてこれからもさまざまな形で支援していきたいと考えています。」

「検定資格取得奨励助成金」

夢を力に!!  
頑張るあなたを  
応援します!!

資格取得に励みをもって挑戦する生徒を応援します。  
次の資格に合格した場合に受験料を補助します。

奨励金の100%を助成	奨励金の50%を助成
山手簿記検定 2級以上 簿記検定 2級以上 簿記検定 1級 簿記検定 1級 簿記検定 1級 簿記検定 1級	簿記検定 2級 簿記検定 2級 簿記検定 2級 簿記検定 2級

佐賀県立唐津商業高等学校

▲助成対象の資格一覧



●連絡先  
茨城県立太田第一高等学校同窓会  
〒313-0005 茨城県常陸太田市栄町58番地  
TEL : 0294-72-2115

# わが学び舎

## 茨城県立太田第一高等学校同窓会

校訓：至誠・剛健・進取

### 学校概要

茨城県立太田第一高等学校は茨城県常陸太田市栄町にある県立高校である。  
内閣官房長官を務めた梶山静六を始め、常陸太田近隣出身の有力者の中には太田第一高等学校の卒業生も多い。また、新田次郎『ある町の高い煙突』の主人公である関根三郎の母校としても描かれている。近年では2020年4月に附属中学校が併設された。■

### 沿革

#### 【創立期】

明治33年3月 久慈郡太田町に茨城県立水戸中学校太田分校の設置を決定  
同年4月 文部大臣より開校を認可され茨城県立水戸中学校太田分校を開設する  
同年6月 太田町浄光寺の一部を仮校舎として入学式を挙行138名に入学許可  
明治35年 茨城県立太田中学校として独立  
明治37年 旧講堂竣工  
明治38年 第一回卒業式挙行

#### 【発展期】

大正4年 校歌制定（作詞：武島羽衣・作曲：小松耕輔）  
大正9年 創立20周年記念式典挙行  
昭和12年 現在地に校舎移転  
昭和23年4月 茨城県立太田高等学校と改称  
定時制普通科設置  
昭和24年 茨城県立太田第一高等学校と改称  
昭和35年 創立60周年記念式典挙行  
昭和51年 旧講堂（現資料館）が国の重要文化財に指定される

#### 【現代】

平成2年9月 創立90周年記念事業 旧講堂内への資料館整備  
平成12年 創立100周年記念式典挙行  
平成19年1月 創立110周年記念事業準備委員会発足  
平成22年 創立110周年記念式典挙行  
平成27年 新校舎完成  
令和1年7月 茨城県立太田第一高等学校附属中学校設置  
令和2年 創立120周年記念式典挙行  
令和4年4月 附属中学校第一期生入学 ■

### 表紙写真・解説

#### 国指定重要文化財 旧茨城県立太田中学校講堂

明治37年に建設された木造平屋建ての講堂。明治期の学校建築の特徴を残す貴重な建物として昭和51年に国の重要文化財に指定された。八角形の塔屋を持つ特徴的な外観と、内部の小屋根組みが見事な技術を示している。現在は資料館として活用され、学校の歴史を伝える貴重な資料を展示している。■



#### 旧太田中学校講堂を彩った

#### 建築家・駒杵勤治

早逝の天才が遺した洋風建築の輝き  
駒杵勤治は、1877年（明治10年）に山形県新庄市で生まれた明治・大正期の建築家である。東京帝国大学建築科を卒業後、26歳で

茨城県技師に招聘され、県内の公共建築物の設計に携わられた。

少年時代、駒杵は擬洋風建築の美に魅せられ建築家を志した。辰野金吾の弟子として学び、ゴシック様式やロココ様式を基盤に、スティックスタイルを取り入れた独自の建築様式を確立された。

茨城県在任中の2年間で、旧土浦中学校本館や旧太田中学校講堂など7件の洋風建築を手がけられた。これらの建築物は後に国の重要文化財に指定され、明治期の洋風建築の傑作と評価されている。太田第一高等学校に残る旧太田中学校講堂は、駒杵の才能を示す建築物として、美しい姿を伝えている。

駒杵が太田中学校講堂で特に意識したのは、地域との調和だった。八角形の塔屋や木造平屋建ての構造は、日本の風土に合うよう工夫が凝らされ、内部の小屋根組みにも卓越した技術が活かされた。

茨城県庁退職後、駒杵は内務省で伊勢神宮式年造営に関わり、海軍省では佐世保鎮守府庁舎を設計された。その後、福岡県で建築設計事務所を開設されたが、肺結核のため42歳でこの世を去られた。短い生涯ではあったが、日本の近代建築に大きな足跡を残した。

旧太田中学校講堂は、太田第一高等学校の歴史を語る上で欠かせない存在である。学生たちが学び、青春を謳歌したこの場所は、現在資料館として活用され、駒杵の建築に対する情熱と、太田第一高等学校の歴史を伝えている。駒杵勤治の功績は、旧太田中学校講堂を通して、永く語り継がれるであろう。■

# ごあいさつ

## 日に新たに



株式会社サラト・代表取締役  
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

●詳しくは、弊社ホームページから  
URL : <https://www.salat.co.jp/>



おかげさまで『同窓会のチカラ』第17号が無事完成し、全国約6300校の大学・短大・高校・高専・各種専門学校などの同窓会へお届けできる運びとなりました。快く取材にご協力賜りました関係者のみなさまには誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

さて、世の中は社会情勢やライフスタイルの変化によって価値観が多様化し、同窓会のようなリアルな人的交流のほか、SNSなどの空間における交流も生まれております。人々が個々の嗜好に合ったコミュニティを形成する中で、現代における多くの同窓会では「若い世代の同窓会員の帰属意識や参加率の向上を図る」ことが大きな課題となっていることは本欄で幾度となく申し上げてきました。

そんな中、今号の巻頭で取り上げた「神奈川県立光陵高等学校光陵会」は、「いかにして先輩会員により積極的に参画してもらうか？」という多くの同窓会とは真逆の課題に取り組みとされています。50年余りこの事業に携わる弊社にとっても、まさに目から鱗が落ちるような発想と内容でした。母校の発展に寄与することを目的として活動する同窓会の存在意義や意味を若い世代同士で共有することが今の生徒たちに響いているのかもしれない。

その他にも、会員との双方向コミュニケーション向上を目指し、同窓会報の充実を図る「茨城県立竜ヶ崎第一高等学校白幡同窓会」や現役生徒たちの未来に向けた資格取得を経済的に応援する「佐賀県立唐津商業高等学校若桐同窓会」などの活動をご紹介します。

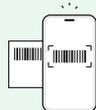
### キャッシュレスで、簡単決済！

会費等のお支払いがスマートフォンからできます。営業時間が長いコンビニの振込用紙を導入いただくことで、各校の入金件数は大幅に増加しました。今後はスマートフォンでの支払いも可能となり、より若い世代や外出の機会が少ない方からのご協力も見込めます。

アプリを  
インストール・起動



バーコード読取



支払い



※支払先は「サラト」となります。  
後日、同窓会口座へ振替えます。

支払い完了



ご利用可能な  
スマートフォン  
決済アプリ



※利用方法の詳細については、各アプリ事業者のHP等をご確認ください。

ぜひとも小誌をご覧いただき、記事内容に関するご意見・ご感想などがございましたら弊社までお寄せください。また、現在お困りのことや解決したい課題などがございましたら、弊社営業員が訪問の際には、お気軽にご相談ください。

これからも私たちサラトは、全国の同窓会が今以上に活性化し、コミュニケーションの輪が広がることを全力でサポートしてまいります。

## 同窓会のチカラ

2025 年号 / Vol. 17

(2025 年 4 月 発行)

編集・発行 株式会社サラト

本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町 172

TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746

東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東 4-18-7

シモジンビル 5F

TEL 0120-036-381 ● FAX 03-3832-6389

E-mail [eigyosalat.co.jp](mailto:eigyosalat.co.jp)

URL : <https://www.salat.co.jp>

**SALAT**  
Salat Corporation



© TOMY

右から：

静岡県・三島北高等学校

広島県・ノートルダム清心中・高等学校

兵庫県・夢野台高等学校

●制服オリジナルリカちゃんに  
新しい仲間増えました  
(お問合せは弊社まで。)

サラトは昨年（令和6年）、全国171校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様に心より御礼を申し上げます。